

### — 大阪市立大学を志望した理由はなんですか

オープンキャンパスがきっかけです。大学の先生から堅い説明を聞くかと思っていたら、在学生の方が登場して、生き生きと勉強内容や学生生活を紹介してくれて、すごく新鮮でした。「この大学なら、充実した4年間を過ごせる」と思い、入学しました。

### — 現在はどのような勉強をしていますか

産業立地論のゼミで、「中国人観光客を大阪に呼び込むための観光ビジネス戦略」というテーマについて勉強しています。商学部というと、特定の企業の経営戦略について学ぶというイメージが強いかもしれません、政策的な視点から、ビジネス課題について考えることも多くあります。このテーマについては、三大学討論会（一橋大学、神戸大学と合同で行う、社会科学系ゼミ討論会。通称：三商ゼミ）でも発表しました。

### — 印象に残っている授業はありますか

何といっても、「キャリアデザイン論」と「プロジェクトゼミナール」です。これは企業や地方自治体の方から、現在抱えている課題を教えていただき、グループに分かれて解決策を企画・検討・提案するものです。さまざまな課題に挑戦しましたが、「低下傾向にある、生鮮食品の卸売市場経由率を上昇させる」という課題は、半期かけて取り組んだこともあって、最も印象に残っています。調査のために、泊りがけで東京の築地市場を見学したりもしました。最終的に提案した内容については、自治体の担当者の方も、「学生らしくておもしろい。検討の価値がある」と評

文系代表

商学部商学科3回生

宮崎早織さん



価してくださって、達成感がありました。高校までは先生から一方的に知識を与えられる形式が多かったので、自分たちで課題の解決策を考えるこの授業は新鮮でした。商学部新入生にもぜひおすすめしたい授業です。

### — 学生さんにとっては難しい課題も多いと思いますが、いかがですか

はい。企業が抱える課題については、深く分析し、いろんな視点から検討していかなくてはならず、当然、私たち学生にとって簡単ではありません。授業の中では、企業の方から厳しい指摘を受けることもあります。ある企業の方には、「お金をかければいい企画ができるのは当たり前。企業では小さいコストで大きな効果が求められる。この提案には、“費用対効果”の視点が足りない」と指摘され、「確かにそのとおりだ」と感じました。落ち込みましたが、企業人として働く上で、費用対効果を検討することは絶対に必要な視点なので、学生のうちに痛感でき、いい経験になりました。

### — 将來の目標を教えてください

入学前までは「答えのある問い合わせ」についてしか考えてませんでしたが、商学部で企業問題について考える中で、「答えのない問い合わせ」に向かっていく力が身に着いたと思います。卒業後は、この力を発揮して、関西の観光に関わる仕事に就きたいと思っています。ゆくゆくは企業の経営者になり、企業活動を通じて社会を変えていきたいと考えています。

### — 現在の研究内容について教えてください

工学部を卒業したのち、大学院工学研究科に進んで、「無線通信の変調方式の推定」について研究しています。携帯電話などの無線通信に応用される可能性がある新しい技術の基礎研究で、まだまだ多くの課題があるのですが、だからこそ可能性とやりがいを感じながら研究に取り組んでいます。

### — 大学院での勉強は、学部のときと違いますか

学部での勉強は、先生方から「ゴールが決まっている課題」を与えられてそれをこなす、ということが多かったですですが、大学院での研究は、「まだ誰も挑戦していない課題」に取り組むことが大きく違います。それが何よりも嬉しいところです。

### — 学部のときの授業で、印象に残っているものはありますか

2年次の「論理設計」ではIC回路の基礎を学んだ後、電子工作をしました。私はギターマンドリンクラブに所属していたこともあって、メトロノームを作ろうとしたのですが、なかなかうまく動作しませんでした。先生やティーチングアシスタントを務める大学院生の方にアドバイスをいただきながら完成させることができ、市大の面倒見の良さを実感したことが印象に残っています。

「プログラミング演習」も印象に残っています。私はパソコンに興味はあったのですが、プログラミングの経験がなく、授業では最初の半年は失敗ばかりで苦しみ続けました。できないことが悔しくて、ときには夜通し作業をすることもありました。半年経ったころによ

理系代表

工学研究科電子情報系専攻  
前期博士課程1回生

衣笠 隆文さん



うやくコツが掴めて、同級生に「教えて」と頼む方だったので、「ここがわからないんだけど」と聞かれる方に変化できたのはいい思い出です。

### — 大学院に進んでから、海外の学会で研究成果を発表されたそうですね

はい、ハワイで開催された国際会議で発表しました。英語での発表は初めてだったこともあり、先生や先輩方に、発表原稿を添削していただきながら、自分にできる限りの準備をしました。行きの飛行機でも、ずっと原稿を読んで暗記しようしていました。当日は発表が始まるまでは緊張していましたが、話し始めると「自分が国際会議で、一流の研究者の前で発表している」と楽しくなってきて、あっという間に終わってしまいました。先生にも「初めてにしては上出来だったよ」と言っていただき嬉しく思いました。とはいっても、発表後の質疑応答では、全てにきちんと答えることはできず、悔しい気持ちも残りました。もっと英語をうまく話せるようになり、また海外で発表したいと考えています。

### — 将來の目標を教えてください

私は技術の進化の速さに感動し、新しい技術に触れたい、進化させたいと思って工学部に進みました。ですから、大学院で研究したことを活かし、社会に貢献できるような新たな技術の開発に携わりたいです。後々まで「あれは衣笠が作った」といわれるような技術を開発できたら最高ですね。

# Student Interview

### — 語学部F.L.D (ESS)に参加されたきっかけは何ですか

入学手続きにて勧誘されました。「ヘレン・ケラーの劇をやる」と聞いて、最初は演劇部と勘違いしたのですが、よくよく話を聞いてみると、英語で討論（ディベート）や演劇（ドラマ）をする団体でした。英語にも演劇にも興味があるので、その場で入部を決めました。

### — F.L.Dのどんなところに魅力を感じますか

英語を勉強することが目的ではなく、ディベートとそのための情報収集や、プレゼンテーション能力の強化、ドラマの演出や演技をたまたま英語でやっている団体だということです。気軽に英語に関わることができますのが魅力です。また論理的な考え方や話し方が身につくので、就職活動でその恩恵を受けています。

### — 印象に残っていることは何ですか

京都大学や大阪大学など、関西の8大学からESS部員150名が集まる合宿です。この合宿は春と夏の2回行われています。3泊4日の日程で、ディベートやドラマの練習を行うのですが、そのうち48時間は、日常会話も含め英語しか使えないというルールになっており、合宿中、英語でのコミュニケーション能力が向上することを実感できました。また、この合宿を通じて他大学の友人がたくさんできました。尊敬の念と、「負けたくない!」という気持ちを抱くことができる友人の存在は、自分にとってプラスになっていると思います。

クラブ代表

経済学部経済学科3回生  
(元語学部F.L.D部長、  
元文化系サークル連合執行部専務)

加賀友基さん



### — 文化系サークル連合の役員として、印象に残っていることはありますか

大学祭の模擬店に「エコトレイ」を導入したことです。国際支援や環境問題に取り組んでいるCHOVORA!!というサークルがエコトレイ使用を考えておられたので、せっかくだから他のクラブ・サークルにも使ってもらおうと働きかけました。一般的なトレイよりも価格が高く、躊躇する団体も多かったのですが、トレイの環境優位性を説明させていただいたり補助金を設定したりして数団体に導入してもらいました。このときにCHOVORA!!の方と接して感じたのは、市大生はおとなしいといわれているけど、実は「熱い」人も多いということ。それを学生みんなに知つてもらいたいので、何かできないかと模索しています。

### — F.L.Dの活動を通じて、自分が変わった・成長したと感じることはありますか

以前は、仕事を一人で抱え込むことが多かったのですが、3年生の時にドラマの監督を務めたのがきっかけで、チームワークや、チーム内での一人一人の役割について意識するようになりました。本番直前の時期になって自分は監督としてやるべきことに徹し、それ以外の部分では他の部員たちを信じて任せることができたのは、私にとって大きな変化でした。

### — 将來の目標はですか

厳しいビジネス環境の中で自分の可能性を最大限広げ、世界に通用するプロフェッショナルになりたいと思っています。企業に入社予定ですので、その企業が日本一・世界一になることに貢献する人材になります。

### — ロシアに1ヶ月の語学留学をされていましたが、留学のきっかけは何ですか

私は新修外国語としてロシア語を履修していく、その授業の担当講師に「市大からサンクト・ペテルブルグ大学へ派遣する学生を募集しているよ」と勧められたのがきっかけです。もともと英語が勉強したくて入学したこともあり、1回生のときはロシアに留学したいとは思っていませんでしたが、授業を通じてロシア語についての興味が膨らんできただけで応募しました。サンクト・ペテルブルグが美しい街だと聞き、見てみたいと思ったのも理由です。

### — 留学先では、どのようなことをしたのですか

サンクト・ペテルブルグ大学で、週5回、1日3時間、習熟度別クラス編成でロシア語の授業を受けました。1クラスは10人程度で、私のクラスには中国、韓国、フィンランド、アメリカの学生も参加していました。授業以外には、サンクト・ペテルブルグ大学の教授に頼んで、日本語を学んでいるロシア人学生との交流会をしてもらったり、休日には観光にも行きました。世界遺産にもなっている「夏の宮殿」の噴水は、本当にきれいで、感動しました。

### — 印象に残っていることはありますか

日本語を学んでいるロシア人の学生との交流会です。4年間しか日本語を勉強していないのに、私たち日本人となんなく日本語で、しかも早口で会話する姿に刺激を受け、「もっと外国語を勉強したい」という気持ちが大きくなりました。留学前は行くかどうか迷っていましたが、今は、留学して本当に良かったなと思

留学経験者代表

文学部言語文化学科  
英米言語文化コース2回生

島田直也さん



います。帰国してからも、市大を訪問したサンクト・ペテルブルグ大学学長の前でロシア語でスピーチしたり、市大に留学しているロシア人学生との懇親会に参加したりと、ロシアとのつながりが増えました。

### — 留学中、辛かつたことはありますか

最初の一週間は、バスの車内放送で停留所名すら聞き取れないなど、言葉の壁を感じて辛かったです。買い物に行ったスーパーで、何を聞かれているかわからなくて、何にでも「ダー（はい）」と答えていて、不要な有料のレジ袋をもらってしまったことも何回もありました。市大から一緒に参加した4人で励まし合いながら、何とか乗り切りました。ただ、1ヶ月の留学期間後半には、早口のロシア語もある程度聞き取れるようになりました、成長を感じました。

### — 今後の目標は何ですか

卒業までに、英語やロシア語に磨きをかけていきます。卒業後の目標はまだはっきりと決まっていませんが、語学力を生かせる仕事に就きたいですね。大学に入ってから認知言語学に興味が出てきたので、大学院への進学も考えています。

